

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4372900748
法人名	(有)八代河内石材
事業所名	グループホーム ざぼん
訪問調査日	平成 19 年 9 月 9 日
評価確定日	平成 19 年 10 月 19 日
評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4372900748
法人名	(有)八代河内石材
事業所名	グループホーム ざぼん
所在地	熊本県八代市鏡町両出1327-6 (電話)0965-52-8151

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市南熊本3-13-12 205号		
訪問調査日	平成19年9月9日	評価確定日	平成19年10月19日

【情報提供票より】(19年8月23日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 15 年 12 月 3 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	人
職員数	17 人	常勤	15 人, 非常勤 2 人, 常勤換算

(2)建物概要

建物構造	鉄筋 平屋造り	新築
	1 階建て	2 棟

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	17,100 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000円)	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	250 円
	夕食	250 円	おやつ	円
	または1日当たり 700 円			

(4)利用者の概要(8月23日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	1 名	要介護2	4 名		
要介護3	5 名	要介護4	7 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.7 歳	最低	69 歳	最高	98 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	松本医院 鏡歯科医院
---------	------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

シンボルの石で作られた“ざぼん”が象徴的なホームは、自然豊かな環境が入居者の住み慣れた環境を与えている。ざぼんの花と実とに命名された2棟が仲良く寄り添い、理念の“共に今を生きる”をもとに、入居者・職員・家族そして地域と共に最期までこの地で支えつづけていきたいと情熱を持って取組まれている。単独型のホームとして、高齢化・重度化が進む中、協力医院との連携や徹底した健康管理、また職員は定例会議やミニカンファレンスを通じて研鑽し、入居者に「笑って暮していただきたい」と自信を持ってケアに取り組んでいることも家族へ安心や信頼を与えている。入居者の穏やかな表情やゆっくりと落ち着いた生活からケアの確かさや入居者と職員の信頼関係の深さを感じ“目と目”“手と手”のケアの実践である。今後も職員の心身にも留意され、継続的なケアの実践となることを期待したい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価をもとに理念の見直しや安全・安楽の生活環境又重度化される入居者の食事支援強化等指摘事項を真摯に受止め改善されている。職員の手薄時間帯については職員の増員とボランティアでの支援、一方職員もミニカンファレンスを毎日行い、定例会議の開き方や内容等検討しながら学びの場として又本質を見直す場として勉強会の質を上げている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>毎年9月9日を外部評価の日と位置づけ、現状に満足する事無く、常に改善意識を持って臨まれている事が自己評価より窺われた。毎日ユニット毎に評価項目に沿って話し合い、その結果をもとにできる事柄から一つずつ改善に取り組まれている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>2ヶ月に1回の開催が定例化している運営会議は回を重ねるごとに家族との関係構築や地域との密接な関係作りへ向け充実したものとなっている。昨年度の外部評価は運営推進会議で報告し、意見を収集しホーム運営に反映させている。地域の中でホームも“家”として関わっていくという姿勢が地域からの様々の協力の申し出として現われている。ホーム側の提案事項の一つである介護・看護教室の実現がホーム機能の還元として期待できる。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>2ヶ月に1回の開催が定例化している運営会議は回を重ねるごとに家族との関係構築や地域との密接な関係作りへ向け充実したものとなっている。昨年度の外部評価は運営推進会議で報告し、意見を収集しホーム運営に反映させている。地域の中でホームも“家”として関わっていくという姿勢が地域からの様々の協力の申し出として現われている。ホーム側の提案事項の一つである介護・看護教室の実現がホーム機能の還元として期待できる。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>小学校や地域の高齢者との交流、中学生の総合学習、保育園との相互交流等地域との接点を“共に今を生きる”という理念に結べ付け、地域の中で連携して取組んでいる。地域住民の消防訓練への参加や緊急連絡先の中に名を連ね、駆け込みステーション等協力体制が構築している。毎月縁側事業として保育園の来訪もある。更に自治会への加入による地域との密接な関係作りや地域福祉の拠点として一役を担っていただきたい。</p>

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	“共に今を生きる”の理念をもとに、地域密着型となり入居者・家族・職員のみならず、地域にも理解されやすいものとなるよう、全職員で検討を重ね、平易な表現へと見直しがなされている。その過程において、理念を再認識し意識の向上へと繋げている。“目と目”“手と手”のふれあいしながら、共に八代の地で今を大切に暮らしたい意向である。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は“目と目”“手と手”を1日のスタートとして観察に心がけ、日々の申送りやカンファレンスにおいても常に意識付けをし、職員も理念を規範としたケアに当たっている。家族の訪問時又家族会等において“共に今を生きる”ことの意義を説明し共有化を図っている。地域に向けて、更にざぼん便りの配布により発信していく意向であり期待したい。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	小学生や近隣の高齢者との交流、中学生の総合学習の受入れ、縁側事業として保育園との相互交流が行なわれている。駆け込みステーションや緊急連絡網にも近隣住民が入るなど、地域住民も協力的であることが窺える。花火大会には入居者や家族又地域住民も参加され楽しまれている。運営推進会議を通じて更に地域との関係を深める努力をしている。	○	運営推進会議により地域との関係が深まっている。参加の区長を通じて町内会への加入や地域の行事に出向く等により、地域との関係が更に深まる事が期待できる。地域との関係構築に期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4	7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>常に創意工夫・効率化を図り、次に進めたいと前回の評価以降学びの場・本質を見直す場として毎日ミニカンファレンスを行っている。自己評価・外部評価をもとに、理念の見直し・安心・安全な生活環境、また重度化される入居者への食事支援として調理研修へ参加する等ケアサービスの向上が図られている。今回の自己評価もユニット毎に1日1項目ずつを話し合い、改善へ取組まれている。</p>		
5	8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヶ月に1回と運営推進会議は定例化している。この1年間はグループホームの理解やこの会議の意図する事の理解を深めながら、ホームの活動報告後活発な意見交換会が行なわれている。家族へも外部評価結果の周知を図り、改善に向け家族からの意見を聴集をし、サービス向上に活かしている。地域の中でホームも“家”として関わっていくという姿勢が地域からの協力の申し出として現われている。復活した餅つき等入居者の楽しみへと繋げている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議への出席や入退所連絡時、また保険更新時等に情報交換を行い助言を得たり、最近の不祥事等に市が研修会を開きホームも参加しているが、更に連携した取り組みを目指している。ホームでの事例検討等でもう一歩進んだ連携を目指されており、今後が期待できる。		

4. 理念を実践するための体制

7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時入居者個々の「連絡ノート」を活用し、細やかな説明が行なわれている。連絡ノートには詳細な記録(特に健康状態)が取られ、健康管理の徹底がなされ、家族への連絡の他受診時の説明用ノートとして活用されている。遠方の家族や訪問の遠のく家族には電話での連絡が取られている。金銭管理については小口預り帳を作成し、訪問時確認してもらう体制がとられている。	○	運営推進会議で職員体制が毎回説明されている。参加できない家族へも、この1年間は職員の退職や移動もなく馴染みの関係が出来ている事等状況を発信されることが望まれる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から家族と話をするように心がけ、家族会や行事等において意見や相談等をもらうようにしている。両ユニットともに玄関脇に施設長への直行便を設置し、意見や要望を収集している。最近では運営推進会議に全家族の参加をお願いしており、家族のみで話し合いが持たれている。その結果を踏まえ、ホーム運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の経験や資格に合わせて異動の利点を考え行なっているが、この1年間退職や異動も無く、馴染みの関係が構築している。男女・年齢のバランスの良い職員配置となっている。		

5. 人材の育成と支援

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内での勉強会や外部研修等積極的に参加している。又外部研修報告会を行い、全職員での共有化を図っている。施設長は人間の意外性を見出し、皆で向上・成長していこうと責任の分散を図っている。職員も資格取得に向け自己研鑽を積んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県GH部会や八代市部会等(テーマを計画し毎月開催)との交流や情報交換等によりサービスの向上を図っている。今後他のホームとの交換研修等も検討されており、更に相互活動・交流に期待したい。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	自宅や入院先などへ何度も出向き、まず本人の思いや心身の状況を把握し信頼関係作りに努めている。更に家族との来所によりホームの雰囲気や生活状況を見てもらい、入居者とのふれあい等経験により本人の納得のもと入居に至っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	季節のおはぎ作りやお盆団子等の作り方を入居者より教えてもらいながら一緒に作る等職員は昔を思い起こさせ“共に今を生きる”ことの意義を見出している。一方的な介護にならないよう、残存能力を活かした役割(食事の挨拶担当・掃除・洗濯物たたみ・行事の際の挨拶等々)等入居者と職員と一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にしている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前に入居者・家族から希望や意向を聞き、日常の入居者の会話等からも把握に努めている。家族以外の関係者特に友人等との接点を探し情報を得、本人の思いに応えるべく努力されている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画に基づくケアの実践のために、思いや意向の把握や家族の希望を踏まえ、まずは暫定プランを立て、様子を見てプランにしている。ミニカンファレンスを開催したり、日々のミーティングにより、職員の意見を反映させている。又カーデックスを使い職員間の共有化を図っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居者の状況に応じ、プランの見直しを行い、検討の必要場合は家族と職員で話し合い、変更している。細やかに対応されていることが窺える。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	定期検診や緊急受診は基本的には家族同行であるが、職員が可能な限り同行し、医療との連携体制を活かして家族への安心に繋げている。買物同行等にも柔軟に対応している。隣接地に併設の小規模多機能ホームが建設中であり、今後更にホームの多機能性を活かした取り組みが期待できる。	○	地域への貢献として、運営推進会議の議題に上っている介護教室や看護教室の開催について企画・参画されることを期待したい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者・家族の希望を大切に、それぞれのかかりつけ医への受診を支援している。緊急時には協力医院への緊急搬送や相談先として緊密な連携体制がとられている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	暫定プランを立てるまでに、家族の意向や終末期の対応又ホームでの可能な対応等を話し合い、覚書を交わしている。終末期の指針を定め、職員も勉強会を開き方針の共有化を図っている。	○	重度化や終末期について初期段階で覚書が交わされているが、更に家族や協力医院と話し合いを重ねチームケアの確立を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーの確保や尊厳について、定例会議で議題としたり、日常的に確認し改善へ向け強化を図っている。事務室のトイレに尊厳やプライバシーの基本事項を貼り、職員の徹底を図っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりの日課を観察し、見直し、日々の記録の中に記入し、プランに反映するよう努めているが、その人が今どうしたいのかという見極め、その日の体調や個々のペースでの生活を支援しているが、職員体制等や状況によっては全員でやってしまうような状況や時間帯によっては同じ事をしていただほうが良いときも有るとの事である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
		○食事を楽しむことのできる支援			
22	54	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者個々のできる事を中心に支援している。畑の野菜の収穫やもやしの根切り・野菜の皮むき・食事の準備や後片付け等一緒に行なわれていた。食事の号令係担当等男性入居者も活躍されている。		
		○入浴を楽しむことができる支援			
23	57	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	健康状態を見極め、一日置き程度の入浴を目安に個々の希望時間に支援している。又入浴拒否には職員のチームプレイでの支援や足浴や清拭への変更が取られている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
		○役割、楽しみごと、気晴らしの支援			
24	59	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	アセスメントで得た情報や昔話や趣味等を話されるきっかけを作り、そこでキャッチしたことを元に個々の役割や楽しみごとを支援している。食事の号令係り(昔の軍隊を思い出された結果)、行事の際の挨拶担当、居室の掃除・調理への参加等個々に対応し、金魚のお世話ならまかせてと1年半も一人で行なわれるなど個々の役割を作っている。		
		○日常的な外出支援			
25	61	事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	広い庭の散歩や食材・日用品の買物等できる限り外気・日光に触れることで心身の安定や意欲へ繋がるよう1週間に1回は必ず支援している。又、年間行事として家族同伴のバス旅行や季節に応じドライブ等が行なわれている。リフト付の車も購入段階となっており、全入居者での外出も期待できる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠の弊害を全職員が理解し、日中開放し、玄関にはチャイムが取り付けられている。入居者の外出の気配を察知し声かけ等で対応している。駆け込みステーションや地域住民の連絡体制も整っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の訓練を行い、1回は消防署・消防団・地域住民参加を得て大々的に行なわれている。全職員が放水や消火器を使った訓練を行い、救急救命も消防署の協力を得、職員の自信へと繋げている。地域住民も緊急連絡先として名を連ねる等協力体制が構築している。又訓練の前に防災無線で近隣住民への周知を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の献立を参考に食事作りが行なわれ、食事量を記録している。全入居者の水分摂取量を記録に残すユニットと必要な入居者のみ記録するユニットになっている。重度化のユニットでは安全に食べていただく事に気を配って支援されており、キザミ食やとろみ等の対応が一人ひとりに採られ、声かけや介助での食事となっている。他事業所での調理研修へも参加しサービスの向上が図られている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	バリアフリーの徹底したホーム内は大型のガラス窓から明るい日差しが差し込み、庭の花や樹木が季節を映し出している。共有空間はワンフロアとなっており、調理の音や匂いを感じる事が出来、畳のコーナーも足を伸ばしゆっくりと寛げる空間である。玄関内外には団欒の場としての椅子を設置したりと居心地良く過ごすための工夫が随所に見られる。通気の良い建物で澁みのない環境である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には押入れとベッドが備えられ、家族より家具やテレビ等が持込まれ、写真や賞状等を掲示し、掃除が行届き清潔感のある居室である。家族には馴染みの品の意図する事を説明されている。		

















